



Eiche

Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町2-518-1 清和会第2ワールドナッシングホーム

Tel 047-461-9111 Fax 047-461-7010

新旧会長ご挨拶

会長を退くにあたって

名誉会長 平尾 浩三



現役会長のまま亡くなられた加藤吉昭先生の後を、ともかく誰かが継がねばならず、力不足の誇りを覚悟の上で、とりあえずお引き受けしたのが平成13年。臨時のお務めのつもりが長期となり、今日に至りました。この年齢で十年近く経つと、さすがに心身の衰えを感じます。医師からは心臓の異常や

自律神経の乱調が言われており、会長職から退きたいと思っていたところ、副会長の任に当たってきた宗宮好和君(千葉大学教授)が、なんとか説得に応じてくれたので、大安心です。宗宮君は、わが国のドイツ語学研究・教育トップクラスの一人で、千葉県日独協会会長として、これ以上の適任者は考えられません。

会長を務めてきた歳月を振り返ると、いろいろな事がありました。会の雰囲気はいつも和やかで明るく、零細な予算の中でも捻りある企画を立てようという意欲に常に溢れておりました。私は実務的には無能で、いわばオミコシの天辺(てっぺん)でニコニコ笑って参ったに過ぎないのですが、オミコシを担ぐ方がたの熱気はまことに頼もしく、凄まじく、私自身は何もしないままに、ずいぶん多くを学ぶことができました。なにしろ学界という狭い世界から外へ出たことがなく、しかも中世ドイツ文芸という浮世離れた対象にのみ関わってきた私、さまざまな世界で多彩な活動をしてこられた会員諸氏との交わりを通じて、まことに多くの新しい体験を致しました。お蔭さまで、日独協会が活気ある営みを続けえたのみならず、私個人の世界もぐんと広がり、心を豊かにさせていただきました。皆さま、本当にありがとうございます。

今後、私は名誉会長と位置づけられるのだそうですが、そんな仰々しい話ではなく、実質的には一会員として共に歩ませて下さるよう、お願い申し上げます。

会長就任ご挨拶

会長 宗宮 好和



5月の総会において、加藤吉昭初代会長亡きあと長年尽力いただきました平尾浩三先生が会長を退任されて名誉会長に就任され、不肖私が会長に就任することになりました。会員ならびに関係機関の皆様には格別なご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

千葉県日独協会は1996年の発足以来すでに14年、お二人の会長の下に、地道ながら実りある歴史を刻んでまいりました。ドイツ軍人の追悼慰霊祭、講演会、研修生の受け入れ、音楽会、ドイツ文化講座、ドイツ語会話教室などの日独友好にかなう行事、ビール祭りやクリスマスパーティーなど会員の親睦をはかる催しなど恒例のものとなりました。

また、2005年に千葉県とデュッセルドルフ市との相互交流関係が生まれてからは対外活動も活発になり、同市の日本デーに合わせた「ドイツ視察旅行」も今年で三回目になりました。昨年5月には幹事協会として全国日独協会連合会年次総会を幕張で開催するなど、国内の諸団体との交流も盛んになってまいりました。

ここで、近々の課題を二つ申し上げたいと存じます。ひとつは、「日独交流150周年」を記念する諸行事が日独双方で催されますが、千葉県日独協会としてもそれに相応しい催しを開催したいと思っています。今ひとつの課題は、私たちが毎年慰霊する「ドイツ軍人」を含む習志野俘虜収容所に収容されていた千人近いドイツ人たちが、習志野でどのように過ごし、習志野以後どこへ向かったのか、といった問題を明らかにすることでありませう。これを当協会の課題の一つとして今後調査・研究を進めていけたらと考えています。微力ながら全力をつくしますので、どうかよろしくごお願い申し上げます。

—今後の主な催し物案内—

1. 第4回「高橋麻里子・Thomas Garcia デュオコンサート」開催

千葉県日独協会後援、会員の高橋麻里子さんと夫君のThomas Garciaさんによる、デュオコンサートも今年で第4回となりました。

この1年間は、お嬢さんが幼いこともあり、地元のスイスを中心にして各種の演奏会に出演されたようです。今回は、下記のとおり演奏会を行いますので、皆様のご来場をお待ちしております。

- ・日時：8月8日(日)午後6時30分開演
- ・会場：旧東京音楽学校奏楽堂
台東区上野公園8番43号(東京都美術館裏)
(JR上野駅より徒歩7分)

・入場料：4,000円

・申込先：①金谷 誠一郎

Tel & Fax : 043-248-0226

e-mail:skanaya@a2.rimnet.ne.jp

②TM コンサート実行委員会

090-6537-8643

2. 第2回ドイツ研修生受入れ(報告とお願い)

5月のドイツ旅行に続き、ドイツ人学生2名の研修を8月末より10日間実施予定です。

この研修にお付き合いいただけるボランティアを募集します。

詳細は別紙をご参照下さい。

3. 第6回「楽しくドイツ語を話すタベ」の会

9月開催予定 但し、日程未定。

お問い合わせは：sakmtmk@ybb.ne.jp

4. 「日独交流150周年」記念新春講演会

本年10月より、「日独交流150周年」記念行事が各地で開催されます。当協会としても、来年の新春講演会をこの記念行事として行ないます。

◎ 会費納入のお願い

年会費未納の皆様は、郵便振替票を再度同封致しますので、早めの納入を宜しくお願い致します。

「デュセルドルフ日本デー参加とハンザ都市、リューネブルガーハイデの旅」

平成18、20年に続き今年も5月27日～6月5日までの10日間ドイツ旅行を実施した。(参加者は、会員及びその家族16名、友人知人14名で30名)旅行の第一の目的は前2回と同様千葉県と友好関係にあるデュセルドルフ市主催の「日本デー」への参加である。

千葉県からは国際室の石井室長、石田主査が参加、また県下の中・高校生からなるサッカー、テニス、卓球部員約20名がプログラムの一つである親善試合を行うため参加した。当協会参加者は例年のように千葉県のブースでPR用のチラシの配布、折り紙・じゃんけん遊び・鎧、冑を着てのデモンストレーション等千葉県のPR及び日本文化の紹介を行った。

「日本デー」後の旅では、今回はリューベック、ハンブルグなどハンザ都市、ヒツァカー、ヴィスマール、ロストック、ベルリンなど北部ドイツの諸都市を巡った。

前回同様、事前の勉強会で基礎知識を習得していたこと、行く先々での橋口団長の歴史、文化全般にわたる詳しい説明もあり中身の濃い意義深い旅となった。

ライン下りの船上ではローライを真近に見ながら全員で「ローライ」を歌い、昔の船人に思いをはせた。ヒツァカーではDr. Jastram市長、京子ご夫妻と昼食をしながら京子夫人の、腹がよじれんばかりに笑わせる、粋な話に大いに盛り上がり今回の旅のハイライトのひとつとなった。眼前を流れるエルベ川の対岸は旧東ドイツで、河を渡って西側に逃れてくる人が数多く犠牲になったという話には戦争の、また体制の悲劇をつくづく思い知らされた。

しかしながらベルリンの壁が崩壊して20年経過し、旧東ドイツの復興は目をみはるばかりで当時の様子が想像出来ないほどきれいに整備されていたのは印象的であった。ところどころ廃屋が見られたが元の持ち主が判明しないからだということを知ることにつけて複雑な思いにさせられたが、あまり観光化されていないためか、我々の心にある、いわゆるドイツらしい美しい風景を見ることができたのは幸運であった。

最終日、ベルリンの大使公邸で神余大使ご夫妻からお茶のおもてなしを受け、日独協会会員ならではの経験をさせていただきました。

大使ご夫妻には、この紙面を借りて、厚く御礼申し上げます。(理事 小野寺 輝孝)



リューベックにて